

陳情第 10 号

コロナウイルス感染症拡大防止、一人ひとりが安心して学ぶための
少人数学級を求める陳情

下記の者から別紙要旨による陳情書を受理したから、議会の審議に付する。

記

陳情者 京丹後市大宮町 [REDACTED]
[REDACTED]
奥丹後地方教職員組合
執行委員長 岡 みゆき

令和 2 年 1 1 月 2 6 日 提出

京丹後市議会議長 金 田 琮 仁

令和2年第5回京丹後市議会12月定例会
陳情文書表

- 1 件名 コロナウイルス感染症拡大防止、一人ひとりが安心して学ぶための
少人数学級を求める陳情
- 2 受理年月日 令和2年11月16日
- 3 受理番号 第10号
- 4 陳情者 京丹後市大宮町■■■■■
■■■■■
奥丹後地方教職員組合
執行委員長 岡 みゆき
- 5 陳情の要旨等 別紙のとおり
- 6 付託委員会 文教厚生常任委員会



2020年11月16日

京丹後市議会 議長 金田 琮仁 様

コロナウイルス感染症拡大防止、
一人ひとりが安心して学ぶための少人数学級を求める陳情

京丹後市大宮町

奥丹後地方教職員組合 (64-3233)
執行委員長 岡 みゆき

陳情事項

1. 小・中学校でのコロナ感染症拡大を防止し、一人ひとりに目の行き届いた学びを保障するため、国に対して20人程度の少人数学級を実現するよう意見書を上げて下さい。
2. 少人数学級実現のため、国に対して教職員定数を増やす財政措置を取るよう意見書を上げて下さい。

陳情の趣旨

京丹後市議会におかれましては、コロナウイルス感染症拡大防止と、コロナ禍から市民の命や生活を守るための施策のためご努力いただいていることに敬意を表します。

コロナウイルス感染症拡大を受けて、全国一律休校が要請され、子どもたちも教職員も突然の休校に大きな衝撃を受けました。この休校は、外出することや友達と対面しておしゃべりすることも自粛しなければならない窮屈なものとなりました。その中で、子どもたちは「早く学校に行きたい」「みんなと勉強がしたい」「友達と遊びたい」などの思いを深めました。子どもたちのそうした願いから、教育関係者は、改めて学校が持っている機能について考えさせられました。

コロナ禍の中で、感染症拡大防止のための「新しい生活様式」が提唱され、学校においても対応が求められています。再開後、分散登校をした学校の教職員からは、少人数にした学級で、「一人ひとりの顔を確かめながら学習できた」「一人ひとりの声に丁寧に耳を傾けることができた」など、その良さに気づいたとの声が多く上がりました。

学校生活で最も長く過ごす時間は教室で過ごす時間です。学校におけるコロナ感染症拡大防止に必要な身体的距離を確保するためには40人ではとても無理であり、身体的距離を確保するためには20人程度の少人数学級が必要です。それは同時に、子どもたち一人ひとりに目が行き届いた教育をすすめる上でも大切な条件です。

コロナ禍の中で、文部科学省は少人数学級の検討をしています。中央教育審議会特別部会の「中間まとめ案」もその必要性を打ち出しました。また全国市長会、全国町村長会、全国都道府県教育委員会連合会などの行政機関、日本PTA全国協議会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会など多くの教育関係団体も少人数学級を求める声明・見解などを発し、各自自治体で少人数学級を求める意見書を採択する動きは大きく広がっています。

子どもたちに良好な環境の下で学習させてやりたいというのは、教職員、保護者、地域の方々の共通の願いです。未来の京丹後市を支える子どもたちに、コロナ感染症拡大を防止し、良好な学習環境を整えるため、本市においても、国に対して少人数学級を求める意見書を上げていただきますようお願い致します。

以上